

「東京家政学院筑波女子大学紀要」の終刊に当たって

学長 門 脇 厚 司

東京家政学院筑波女子大学は平成8年4月に、学校法人・東京家政学院の2つ目の大学として、つくば市に国際学部単独の小さな大学として開学されました。国際社会学科と比較文化学科を擁し、以後、8年にわたり学生の教育に邁進してまいりましたが、本年度限りで学生の募集を停止することになりました。そして、来年度（平成17年度）短期大学部と統合し、新しく、男女共学の四年制大学に改組することになり、名称も「筑波学院大学」と改めることになりました。そのために必要な認可および届出の手続きを取ってまいりましたが、平成16年10月の時点で正式にすべての認可を受けることができました。こうして、東京家政学院筑波女子大学と同短期大学部は、晴れて、筑波学院大学として、平成17年4月に再出発することになりました。

本紀要は東京家政学院筑波女子大学がスタートした平成8年度末の平成9年3月に第1集を発刊、以後、毎年発行し続け今回で第9集になりました。しかし、本学は、先に書いた通り、本年度限りで学生の募集を終え、来年度から筑波学院大学として学生を受け入れることになりました。こうした改組・改称に伴い本紀要の発刊をどうするかについて紀要委員会で諮ってもらったところ、第9集をもって終刊とし、来年度から「筑波学院大学紀要」（仮称）として刊行するという決定にいたしました。

終刊に当たり、これまで刊行された紀要を概観しました。そして、教員数がさほど多くはない大学であるにもかかわらず、250～300頁のかなりボリュームのある紀要を刊行し続けてきたことを知りました。毎年、半数以上の教員が本紀要に論文を寄稿し掲載されるというのは、それだけ先生方の研究意欲が高いことの現われといえましょう。しかし、このことは、数多くの学会や他の学術団体および機関が刊行しているレフリー付きの学術誌、すなわち審査を通らなければ掲載されない学術誌への寄稿がさほど多くないことの裏返しなのではないかと言えなくもありません。

先に書いたように、本学の紀要は来年度から名称を変え引き続き刊行されることとなります。その紀要の内容が、大学の再出発に相応しく一層充実することを願うものですが、同時に、本学の教員諸兄姉には、できるだけ本学以外の学術機関で刊行される学術誌にも多数の論文を寄稿し掲載されるよう努力し、新しい筑波学院大学の知名度と教員の充実ぶりを世間に周知させていただくよう期待したいと思えます。